

□建物名称

# 大阪 朝日生命館ビル



□建物概要

竣工：1962年（昭和37年）2月6日

工期：1958年11月～1962年2月  
（第1期～第2期）

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造

規模：地上9階 地下3階 塔屋3階

延床面積：2,0515.87㎡

用途：複合用途ビル

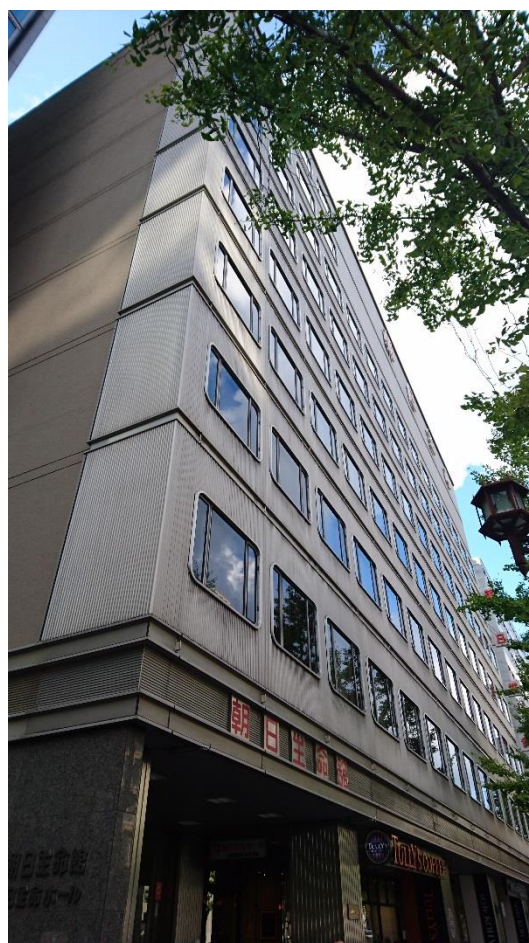
設計：株式会社 竹中工務店

施工：株式会社 竹中工務店

□特徴

・御堂筋が完成(1937(昭和12)年)して25年、新しい大動脈となった御堂筋と、古くから主要な通りである高麗橋筋が交わる角に建てられたビルである。

地下鉄の淀屋橋駅と直結し、8階には朝日生命ホールを持つ。



御堂筋といえばオフィス・銀行が建ち並びイメージの強かった 1960 年代に、ホールという集客施設を導入したことは、現在のようにオフィス以外にも店舗やショールーム等複合の用途が人の流れを呼ぶ時代をあらかじめ予測していたかのような先駆的計画であると言う事ができる。

現在では、1 階にカフェと御堂筋沿いには珍しいスーパーマーケットがテナントとして入っており、近隣のビルとは異なった風景を提供している。

#### □竣工当時の記事

- ・『建築と社会』1960(昭和 35)年 10 月号に、第 1 期竣工当初の写真が掲載されている。

設計者は、生命保険の支社と証券会社の 2 社組織をメインに、一般貸室やホールも備えた商業建築のあり方を検討して、「内容においても外観においても、それは新鮮にして親近感の溢れたものであって欲しい。そして美しい大銀杏並木にふさわしい表現が要求される。」と記している。

現在は銀色のアルミの外壁は、竣工当時、金色に加工されたアルマイトパネルで、新緑の銀杏並木にも黄葉の木々にも馴染んだことだろう。



竣工時の外観

- ・特徴のひとつである車両タイプの角丸のアルミサッシは、「空気調整の完備した近代建築における遮音と採光の条件による、軽快な室内環境を、確立しうる確信に基づくものであった。」と記し、「この建築の合理性と機能性と精度の高い工業製品の構成による表現は、社会的共感をえられるべき商業建築のイメージの実現であり、この建築に包含される事業の繁栄と直結する所以である。」と締めくくっている。

